

学年	高校1年	教科	国語科	科目	現代の国語	単位数	2
教科書名	高等学校現代の国語 (第一学習社)			副教材名	読解現代文必携 キーワードの卵 (尚文出版) 現代文 思考論理のスイッチ必修編 (浜島書店) 現代文 長文 記述 問題集 読解力 習得編 (いづな書店)		
コース・クラス	中高一貫クラス						

I. 目標

- 1 日本語で適切に表現する能力、的確に理解する能力を育て伝え合う力を高め、大学入試に対応するための基礎力を養う。
- 2 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
- 3 必要な情報を探す方法を理解し、情報の妥当性を考える力をつける。

II. 授業のねらい

- 1 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深める。
- 2 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めること。
- 3 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めること。
- 4 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させること。
- 5 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けること。

III. 授業の進め方

- 1 文章内容の理解を主とし、発問形式による教授方法やグループ学習によって学習を進める。
- 2 読解力向上のため、副教材を用いた演習を定期的実施する。
- 3 知識事項定着のため、副教材を用いた小テストを定期的実施する。
- 4 「日本大学付属学校等文芸コンクール」等に向けた創作活動にも適宜取り組む。

IV. 学習上の留意点

- 1 教科書の新しい単元に入る際は、予習として意味調べや漢字の書き取り、作品の通読を行うこと。
- 2 授業中には、板書や必要な情報をノートに書くこと。また配られた資料は、原則ノートに貼って保管すること。
- 3 毎時教科書、ノート、副教材を授業前に準備し、机の上に置いておくこと。
- 4 小テストに際しては事前にしっかり準備をし、事後には復習をして定着を図ること。
- 5 問題集は、授業担当者の指示通りに使用すること。(演習課題と自習課題の確認)

V. 定期試験 (状況により変動あり。)

- ・一学期中間試験.....「本当の自分」幻想・フェアな競争・初見問題
- ・一学期期末試験.....水の東西・鏡・初見問題
- ・二学期中間試験.....現代の「世論操作」・「文化としての科学」・初見問題
- ・二学期期末試験.....羅生門・ロビンソンの人間と自然・初見問題
- ・学年末試験.....不均等な時間・「間」の感覚・無彩の色・城の崎にて・初見問題

VI. 評価の方法

- 1 定期試験・進研模試..授業内容を理解し、それを応用することができる。
- 2 小テスト...計画的に自学自習を行い、意欲的に小テストに臨むことができる。

- 3 提出物...積極的に授業に参加し、課題に対して期限を守り、真摯に取り込むことができる。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	・初見対策 ・「本当の自分」幻想	・定期試験 ・小テスト ・提出物	・評論の読解方法を習得する。 ・登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。 ・進研模試・スタディサプリ到達度テストに向けた初見問題演習に取り組む。
	5	・フェアな競争 ・水の東西		
	6	・鏡 ・言語活動		
	7			
二学期	9	・初見対策 ・現代の「世論操作」	・定期試験 ・小テスト ・提出物	・評論の読解方法を習得する。 ・登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。 ・進研模試・スタディサプリ到達度テストに向けた初見問題演習に取り組む。
	10	・「文化としての科学」 ・羅生門		
	11	・ロビンソンの人間と自然		
	12	・言語活動		
三学期	1	・不均等な時間 ・「間」の感覚	・定期試験 ・小テスト ・提出物	・評論の読解方法を習得する。 ・登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。 ・来年度の基礎学力到達度テストに向けた初見問題演習に取り組む。
	2	・無彩色の色 ・城の崎にて		
		・言語活動 ・初見対策		

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。